

## 〔特別講演〕耐震工学に望む

国土館大学教授 沼田政矩

耐震工学に望むこととしては、つぎの各項を挙げたい。

- (1) 地震国の日本として、世界に誇り得る研究を行うこと。
- (2) 耐震設計の動的解析に必要な、地震動、構造物と地盤との応力と歪の関係、構造物と地盤との減衰性、土の付加質量、などを知るために、模型実験は勿論のこと、実際に生ずる地震を利用することを進めて欲しい。すなわち、現場に強震計などを設置すること。
- (3) 本州四国間の長大橋梁に対する耐震性の検討。
- (4) 沈埋トンネルの耐震性の検討。
- (5) 地下鉄道の耐震性の検討。
- (6) 瓦斯、油、水、下水などに対する管路の耐震性の検討。
- (7) 軟弱地盤の耐震性の検討。
- (8) 震害の実態を示す写真や図を集めた書籍の刊行。
- (9) 地震に対し、気象に対するのと同程度の関心を、一般大衆に持たせるよう努めること。
- (10) 大地震時に、如何に対処すべきかを、一般大衆に知らせること。